

# 広報 Public Information OBIHIRO おびひろ

# 3月号

令和4年  
(2022年)  
No.1174  
March

発行: 帯広市  
編集: 政策推進部広報秘書室広報広聴課  
〒080-8670 帯広市西5条南7丁目1番地  
電話(0155)24-4111  
FAX(0155)23-0151  
<https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/>

掲載情報は2月10日時点のものです。新型コロナウイルス感染症の影響により、掲載内容や行事などの日程が変更になる場合があります。  
新型コロナウイルス感染症情報・住民税非課税世帯などへの「臨時特別給付金」については、3頁をご覧ください。



問い合わせ 企画総務課 (市庁舎8階、☎65・4201)

※令和3年10月1日撮影

## 義務教育学校とは

令和4年4月、大空地区に大空小学校と大空中学校を統合した「大空学園義務教育学校(以下、大空学園)」が開校します。

義務教育学校は、小学校6年間と中学校3年間を合わせた9年間の教育課程のもと、一貫した教育を実施するための学校です。

北海道には、現在15の義務教育学校があり、大空学園は約500人の児童生徒が学ぶ、北海道最大規模の義務教育学校となります。

## 校舎の特色

- 既存の体育館に加え、校舎2階にも体育館(サブアリーナ)を配置
- 図書室やパソコン室などを集約したアクティブラーニングスペースを配置
- 地域活動用の地域交流スペースを設置
- 児童保育センターを併設
- 生徒のアイデアを多く取り入れたデザイン



## 大空学園の教育

**1** 1～9年生が同じ校舎で学ぶ利点を生かし、他学年と日常的な触れ合いや行事などを通して、思いやりや優しさを育む教育を行います。

**2** 小中一貫の教育課程を「初等部(1～4年生)」「中等部(5～7年生)」「高等部(8～9年生)」と区切ることで、中学進学に伴う心理面や学習面の不安などを解消します。

**3** 教科担任制や、国際理解教育と英語教育の充実、地域との関わりを重視した教育を実施します。



大空学園義務教育学校が4月に開校します

地域の皆さんの声

9学年が同じ校舎で

大空小学校 児童会長 篠田 未来 さん



私が大空学園で楽しみにしていることは、1年生から9年生までの学年が一つの校舎で学校生活を送ることです。入学したばかりの1年生を中学生がお世話をしたり、体育祭や学習発表会などの行事で、小学生の発表を中学生が見たり、今までにない体験をすることがたくさんあり、今からとても楽しみです。

私たち6年生は、大空学園に行けば、生徒会の中心にもなっています。4月からは大空学園7年生として頑張りたいです。

大空学園の目指す姿

大空中学校 生徒会長 伊藤 理人 さん



私はこの大空学園を、文武両道を目指とした学校にしたいと思います。目標をつくることで、生徒全員が同じ方向を向いて成長することができます。部活動や少年団を頑張ることで成功に向かい努力する力がつき、学習面で努力することで、自分の夢に向かって歩める大人になれると思います。

私は生徒会長として、「1年生から9年生」までが文武両道を目指し、仲が良く学ぶ力を育む大空学園を創りたいと思います。

地域の絆を深め活性化を

大空町連合自治会会長 久保 竹雄 さん



大空団地と共に歩んできた大空小学校と大空中学校が、新しいスタイルの「大空学園義務教育学校」としてスタートすることは、地域として大歓迎です。

私たちは「大空地区の子どもたちを地域で見守り育てる」をモットーに、学校と共に歩む地域としてこれまで活動してきました。

この度、学園内に「地域交流スペース」が新設され、より一層絆を深め地域の活性化を図るよい機会となるよう、期待をするとともに地域も努力してまいります。



◀広々として快適なアクティブラーニングスペース



▲明るいサブアリーナ



保健室の相談コーナーは廊下から見えないよう、プライバシーを確保



▲開放感のある生徒用玄関



一般公開のお知らせ

日時：3月26日(土)、13時～15時  
場所：大空学園(大空町11、現大空中)

※来場の際は、上履きやスリッパを持参してください。  
感染症の拡大防止のため、事前に自宅での検温のほか、入り口での手指消毒をお願いします。



▲生徒のアイデアでトイレの入り口に棚を設置

◇今月の市長コラムは大空地区についてです。併せてご覧ください(裏表紙)。



小学生によるオンライン交流

今年度は、それぞれの姉妹都市の小学校と協力してインターネットを活用したオンライン交流を行いました。

参加した児童は、自ら調べてまとめたまちの魅力を紹介し合い、お互いのまちへの理解を深めました。児童から「教えてもらった場所にいつか実際に訪れてみたい」との声も上がりました。



帯広小学校でのオンライン交流



高校生によるスワード市とのまち紹介動画の交換

国際姉妹都市である米国スワード市とは、今年度は、両市の高校生が地元の魅力を紹介する動画を作って交換する取り組みを行いました。

参加した高校生は、「いつかスワード市を訪れ、これまで培ってきた英語力を生かして現地の人と交流したい」「将来は英語の先生になるのが夢。今回の経験を生かしていきたい」と話していました。



真鍋庭園での動画撮影

コロナ禍での親善交流

姉妹都市との交流の取り組み紹介

異なる文化と触れ合い、人と人のつながりを通じて、魅力ある地域づくりを進めるため、国内外の都市と交流を行っています。

問い合わせ 観光交流課(市庁舎7階、☎65・4133)



大分市姉妹都市締結55周年

大分市と帯広市は、令和3年に姉妹都市締結55周年という節目の年を迎えました。今年度は親善訪問団の相互派遣を予定していましたが、特産品を通して姉妹都市に親しんでもらう物産交流を拡充して行うこととしました。

帯広市では、「とかちむら」で大分の特産品であるミカンやニラなどの販売や、大分市親善大使が大分の魅力PRを行いました。また、スーパーのフクハラ主催でカボスを使った加工品や海産物などを販売する「大分フェア」が行われ、多くの人に大分の食を知ってもらえる機会となりました。

大分市では、JR大分駅前のイベント会場と、観光客が多く訪れる「道の駅さがのせき」に、帯広市のブースを設けて、帯広のお菓子の販売や大正メークインの詰め放題のイベントを行いました。来場者からは、「コロナが落ち着いたら、ぜひ帯広市で本場の豚丼やスイーツを食べたい」などの声もいただきました。



新型コロナウイルス感染症の影響により、各都市との交流事業が制限される中、コロナ禍でも行える交流を工夫して実施しました。



とかちむらでのイベント



フクハラでの「大分フェア」